

町内会創立 40 周年記念誌

手稲パークタウン町内会の誕生と 手稲の歴史



中の川から見た手稲山（この辺り一帯は昔稲積農場がありました）

手稲パークタウン町内会

創立40周年記念誌の発刊に当たって

手稲パークタウン町内会 会長 成澤 公昭



手稲パークタウン町内会は、昭和55年（1980年）7月20日に創立され、今年で満40周年を迎えることになりました。

当町内会は、稲積連合町内会に所属し11の町内会（合計3,187世帯）のなかでも最大の758世帯が加入する町内会であります。

◎町内の人口推移と高齢化比率（65歳以上の人口割合）をみてみます。

20年前（平成11年10月）	約2,200人（内高齢者 13.6%）
10年前（平成21年10月）	約2,100人（内高齢者 22.4%）
昨年度（令和 1年10月）	約1,850人（内高齢者 37.7%）

※上記の数字は、住民登録情報を住所で集計しているため、他の町内会分を調整しています。

全体の人口は、減少傾向が続き、急激な高齢化現象がうかがえます。

しかし、最近新しい住宅の造成や若い世代への世代交代も見られます。

又、この地域は自然災害も少なく、防火・防犯上も比較的 안전한地域であると思います。

これからも、50周年・60周年に向けて地域が安全で安心な、さらに清潔な町内を目指し、人は変わっていても住みよい場所であり続けていければ幸いと考えております。

手稲パークタウン町内会の誕生と手稲の歴史

今年は、手稲パークタウン町内会創立 40 周年を迎え、町内会として節目の年となります。7 月に町内会の皆様と 40 周年をお祝いする祝賀会を計画しておりましたが、コロナの感染拡大のため祝賀会を断念することになったのは残念なことでした。これまで町内会の発展にご尽力された役員の方々と町内会活動を支えていただきました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

創立 40 周年のこの機会に、手稲パークタウン町内会誕生までの手稲の歴史を紐解き、この地域の移り変わりとその発展を振り返ってみたいと思います。

手稲の地名

私たちの町内会がある鉄道線路の北側一帯は、手稲山から流れてくる発寒川、中の川、追分川、富丘川、三樽別川、軽川などの下流部にあたり、川が合流したり分流したりして、昔は釧路湿原と同じようだったといわれています。鶴の営巣地があったことが、次頁の明治 29 年の地図からわかります。「手稲の地名」は、アイヌ語の「テイヌ・イ（ぬれているところ）」から付けられました。

手稲に開拓の鋤が入る

安政 4 年(1857 年) 函館奉行が山岡精次郎に命じ、札幌周辺を調査し、農夫を募り軽川・稲穂の開墾に従事させた。

明治 4 年(1871 年) 開拓使は、札幌・小樽の交通開発にあたり三樽別(富丘)に交通屋を設けた。

明治 5 年 発寒村から分離し、手稲村となる。

明治 13 年 軽川簡易停車場(今の手稲駅)が開業。官営幌内鉄道、手宮(小樽)・札幌間の鉄道(日本で 3 番目)が開通した。

明治 15 年 山口県人が 15 戸移住し山口の名がつく。手稲村を、上手稲、下手稲、山口の三村とする。バッタの大群が石狩地方を襲い大きな被害が出る。退治したバッタを山口の砂地に埋めバッタ塚を作る。

明治 20 年 新川の掘削工事着工(周辺湿地の排水と治水、舟運のため)。

明治 21 年 軽川・花畔間の石狩街道が開削された。

明治 24 年 鳥谷部弥平次が、手稲山で鉱山の試掘を始めた。

明治 25 年 山口小学校(現:手稲北小学校)開校。三樽別(富丘)に光風館が開業。

明治 27 年(1894 年) 前田利嗣侯、茨戸に前田農場を創設する。

明治 28 年(1895 年) 前田侯、軽川に前田農場の支場を開く。

前田侯 軽川に前田農場を作る

前田農場は、旧加賀 100 万石前田藩の第 15 代当主前田利嗣（としつぐ）侯により、明治時代になり職を失った士族の生活を救うために作られました。明治 17 年、先ず後志管内共和町に開墾に入り農場を始めました。共和町前田村の始まりです。ここでの営農が成功したので、欧米で近代的な農牧業を視察した利嗣侯は、札幌近郊で近代的な農場を作ることにしました。



明治 29 年の手稲地図

全国的に有名になった乳製品

明治 27 年、利嗣侯は、茨戸に土地を購入してここを本場とし、明治 28 年、さらに手稲村軽川にも土地を購入して、軽川を支場とした「前田農場」ができあがりました。ところが、茨戸の農場では、石狩川の氾濫でたえず水害が起き畑作に大きな被害が出るため耕作が困難になりました。

そこで、明治 32 年、農業の方向転換をして、畑作から酪農に力を入れることになりました。

軽川は、泥炭地と砂質地でしたが土地改良に努め、乳量の多い牛の飼育や外国から牛を買い品種改良を行うとともに、外国製の機械を導入し大型農法を行い飼料作物の耕作地を広げていきました。前田農場の牛乳は、味が濃い牛乳だと評判だったそうです。農場で品種改良して生まれた優良な乳牛は、国内の牧場や中国・朝鮮にも売られたといえます。

明治 39 年、本場を軽川に移し、バター製造を始め、造林も手がけました。バターは、梅花印バターの名で東京や大阪などで高級品として人気があり、一部は外国にも輸出されたそうです。

植林で豊かな森林がよみがえった手稲山

前田農場では、手稲山で林業経営も始めました。このころ手稲山は、乱伐や山火事のため広大な森林が荒廃していました。木材は、建物の建築や、農場の木柵、燃料、炭などの確保に必要でした。そのため、軽川、金山地区から現在の手稲オリンピックにかけて農場が所有していた土地に植林を行うとともに森林資源の維持にも務め、山は次第に生き返っていきました。手稲山の植林は、前田農場のほかには北海道造林合資会社も行いました。今日の手稲山が、豊かな森林に覆われているのはこの事業がもとになっています。

明治の終わりころには、農場の総面積は2006ha(札幌ドームのおよそ365倍)まで広がりました。大規模な農場経営は、岩手県の小岩井農場とならび日本の農場経営の模範として全国から注目を集めることになりました。

前田農場の成功が知られるようになり、農場経営で成功しようと望む人達が、手稲に広大な土地を求め農場を始めました。そして、稲積農場や極東農場、曲長(かねちょう)農場など多くの農場が誕生しました。

経済恐慌により経営が窮地に—

小作地を全面開放

第1次世界大戦終了後の経済不況や大正末期の関東大震災の影響、さらに昭和初期に世界中が経済大恐慌となり日本国内も経済や社会が大混乱となりました。前田農場もこの影響から逃れることができず、経営難から乳量が多く脂肪分の多いホルスタイン種への切り替えができませんでした。

さらに、道内で乳牛の結核病が流行し多くの牛が病死したこと、酪農での収入がなくなりました。窮地に陥った前田家は、酪農にかかわる事業は中止、小作地は全面開放、事業は林業だけを残すことにしました。

小作地開放は、大正14年に決まりましたが、経済不況や社会不安などから順調に進まず、農場の小作地すべての売却が終わったのは昭和10年でした。これにより、前田農場は、植林を重点とした山林経営に力を注ぐことになりました。



大正5年の手稲の地図

農場の所有面積は、2006ha から 1400ha に縮小になりました。

前田農場 50 年の歴史が終わる

明治の中頃、星置川で砂金がとれ、手稲山に金が眠っている話が飛び交ったそうです。畑仕事最中に偶然金を発見し、全財産をかけて現在のルカ病院付近を試掘する人が出ましたが、成果が得られず断念。大正時代になり鉱業権を取得した元技師が、鉱山開発に乗り出しました。手稲鉱山と命名し、鉱脈探しをしましたが、資金がつき閉山となりました。

昭和 3 年から、手稲山にある前田農場の植林地に金銀を採掘するため鉱業権を設定し採掘を行う業者が出ましたが、予想通りには金は採れませんでした。

昭和 10 年、三菱鉱業が手稲鉱山の権利を買い取り、経営を始めました。前田農場は、鉱山会社の試掘などにより山林の荒廃が進んだため、昭和 12 年、農場の所有地を全て売却することに決め、農場内の鉱業関連の土地を三菱鉱業に売却しました。手稲鉱山は、国の産金政策により増産を進め東洋一の金山、鴻之舞に次ぐ地位を築く金山となりました。(この時、鉱石を運ぶ 4 キロメートルの地下トンネル、星置通洞が掘られました)。昭和 22 年、そのほかの農業地の処分が終わり、前田農場 50 年の歴史は閉じられることになりました。

前田の地名の由来

現在、私たちが暮らす前田地区は、南は JR の鉄道北側から北に向かい新川を越えて石狩市との境まで、東西は旧中の川から樽川通りに囲まれた範囲です。この地域は、手稲区で一番人口の多い地区になっています。この前田地区は、明治時代に旧加賀前田藩が開いた前田農場があったところで、軽川や新川と呼ばれていましたが、昭和 17 年、前田農場が手稲地区の発展に大きな功績を残したことから、地名を前田と決めました。

明治 28 年(1895 年) 手稲神社が創建。

明治 35 年 三樽別(富丘)に乙黒製油所開業。

明治 36 年(1903 年) 稲積豊次郎、稲積農場を創設する。

稲積さんが稲積農場を開く

稲積農場は、明治 36 年、小樽市の倉庫業者稲積豊次郎氏が、現在の前田地

区の東南部と新発寒地区の土地約 400ha を購入し、開拓を始めました。

稲積豊次郎氏は、富山県で米穀商の家に生まれ、商人としての修業を積み北海道に渡り小樽で海産物の商いや米の仲買、倉庫業を行い成功を収めました。

そして、明治 36 年、札幌琴似村に稲積農場、大正 6 年、北見訓子府に、大正 9 年には北見置戸にも農場を開設しました。

稲積農場があったところ

稲積農場は、函館本線から北側へ新川までの間、東は追分通りから西へ追分川（当時の追分川は、琴似方面から函館本線に沿って手稲に向かい、稲積公園駅あたりから北西に流れを変えパークタウン町内会を通り、下手稲沿いにある東本願寺の北側から旧軽川と合流し、さらに新川の入り口で現中の川と合流し新川に流れ込んでいました。）までの台形の土地になります。

農場は、昭和 9 年に農地を開放して、農場の小作人は自作農となりました。自作農になった人たちは、この地で酪農や稲作を営んできました。稲積農場の稲積の名前は、稲積地区以外では追分通りと新川が交差する「稲積橋」に、それと、追分通りと桑園発寒通りが交差するホームック付近のバス停、「稲積 1 号」に今も残っています。

昭和 17 年、琴似村に属していた炭鉱排水（現中の川）以西の手稲側の土地約 150ha は、手稲村前田地区に編入となり、私たちが住む地区は、琴似村から手稲村になりました。

炭鉱排水により農地の改良が進む

炭鉱排水というのは、北海道炭鉱鉄道株式会社（北炭）が作った排水溝のことです。手稲に炭鉱はありませんが、炭鉱会社が作ったことから炭鉱排水と呼ばれてきました。明治 13 年、官営幌内鉄道の手宮・札幌間が開通し、軽川簡易停車場（今の手稲駅）ができ弁慶号が走りました。明治 22 年、北海道炭鉱鉄道株式会社が、三笠にある幌内炭鉱の石炭を小樽の手宮まで運ぶため、三笠・小樽間の官営幌内鉄道の払い下げを受け、このあたりの水を排水するために排水溝として作ったものです。

当時、この付近一帯はまだ大変な湿地帯で、雨が降ると川が氾濫しやすく、水を排水しなければ鉄道輸送に支障があったようです。そのため、大きな排水溝を作りこの地域一帯の水を新川に流すことにしました。この排水溝ができた

ことにより、このあたりの土地の改良が進みました。明治 39 年、鉄道国有法ができ、鉄道は北炭から国鉄の所有になりました。現在は、炭鉱排水という名は、地図上から消え中の川になっています。

冷害や水害で苦難の農家

稲積農場最盛期には、この炭鉱排水の水を使い、大きなでんぷん工場を経営していたそうです。昭和 9 年の農地解放後、自作農となった人たちは、酪農業や稲作を中心とする専業農家を営んできました。稲作農家では、初め、半泥炭地のため田んぼがぬかり馬を使えず、すべて手作業で行ったといえます。冷水や水害、病虫害で米が満身に収穫できず苦勞が報われない年を何度も経験したこともあったようです。

一帯に広がる田園風景

稲作は、河川が多く水が豊富にあることから、富丘、稲積、稲穂、星置などで盛んに行われ、鉄道沿線に田園風景が広がっていました。昭和の中頃には、山口団地や前田森林公園付近では大規模な水田が作られていたようです。土地の大部分は泥炭地で、稲作に適さないところでしたが、稲作農家のたゆまない努力で稲積にも水田が作られてきました。

明治 39 年(1906 年) 前田農場軽川支署が本場となる。

明治 41 年(1908 年) 小川二郎、前田に興農園農場を創設する。

明治 45 年 日本石油、軽川(駅の北側)に北海道製油所を開業。

大正 7 年(1918 年) 興農園農場が極東練乳株式会社の経営に移る。

大正 11 年 軽川・花畔間に、軽石軌道株式会社が設立され、営業を開始する。

昭和 9 年 軽川駅舎を山小屋風に改築する。

昭和 9 年(1934 年) 稲積農場閉じる。札幌・小樽間に国鉄バスが開通。

昭和 10 年 三菱鉱山株式会社が手稲鉱山の操業を開始する。

昭和 11 年 軽石軌道廃止になる。

昭和 13 年 王子造林、軽川事業所を開設。

昭和 15 年 極東練乳株式会社が、明治乳業株式会社の経営に移る。

明治乳業の牧場ができる

札幌興農園から極東練乳の農場に

明治41年、前田農場と稲積農場の間に札幌興農園の農場ができました。この農場は、札幌五番館を創設した小川二郎氏が、牧草を育てるために開きました。大正7年に極東練乳株式会社がこれを買収し、三井物産の資本をもとに酪農経営を営みました。農場は持っている土地を本部、軽川、樽川村、花畔村に区分して、米国から数多くの優秀なホルスタイン種を輸入し、これを繁殖させて道内外に供給しました。

極東練乳、東洋一のホルスタイン種を育てる

この農場で改良されたホルスタイン種は、東洋でこれに匹敵するものがないくらい優秀であったようです。同社の工場は、道内道外各地にでき、牛乳、アイスクリーム、乳製品、缶詰などが作られていました。会社は森永とともに一流メーカーとされ、製品は三井物産が一手に販売していました。

明治乳業が牧場を経営

昭和に入り経済恐慌などの影響で営業不振が続き、昭和10年、明治乳業が極東練乳の製品全部を販売するようになり、昭和15年、会社は明治乳業に吸収され極東農場、極東練乳の名は消えました。これ以後、この辺りは明治乳業の牧場として酪農を営み、地域の酪農発展に大きな貢献を果たしてきました。



昭和25年の手稲の地図

都市化の波により経営が困難に

昭和40年～45年、日本は東京オリンピック、大阪万博特需などで「いざなぎ景気」と呼ばれる好景気となり、都市部に人口が集中し都市近郊に新しい住宅地や工場などがどんどんできるようになりました。

昭和42年、手稲町は札幌市と合併し、「札幌市西区手稲」となりました。手稲

にも新しい住宅地が次々とできるようになり、農地を宅地にする農家が増え地域の様子は大きく変わってきました。牧場や水田、畑作を行ってきた農家は、環境の変化により経営が困難となり、昭和48年、札幌市の勧めにより前田地区稲積開発期成会を設立し農地を手放すことにしました。これを契機に、明治乳業の農場経営が終わることになりました。

現在、明治の名前は、明治南公園、明治北公園に残っています。

昭和17年 手稲村と琴似村との境界が追分川から炭鉱排水(現中の川)に変更。

昭和20年 日本石油製油所及び藤井宅に爆弾投下(石油タンクが3日間炎上。

石油は、石狩、勇払、宗谷の油田から運んだ)。終戦

昭和22年 前田農場閉じる。第1回村会議員選挙。

昭和26年 手稲村が手稲町となる。

昭和27年 軽川駅が手稲駅に改称。

昭和29年 札幌・小樽間の国道の舗装が完成。

昭和32年 手稲山山頂に、HBC放送等が完成し、放送を開始。

昭和40年 稲穂に手稲車両基地ができる。

昭和42年 手稲町が札幌市に編入(西区)。北海道工業大学が開学。

昭和46年 札幌冬季オリンピック開催。

昭和51年 手稲高校開校。

昭和52年 前田森林公園第一回植樹祭、ホクレンショップ手稲前田店開店。

昭和53年 富丘小学校、前田小学校開校。

昭和56年 手稲体育館開館。

昭和57年 手稲駅北口ができる。手稲プールができる。

昭和59年 手稲郵便局開局。

平成元年 西区から分区して手稲区が誕生。

手稲パークタウンと町内会誕生

稲積記念会館に行ったことがある人は、会館の入り口に「郷栄の碑」が建っているのを見たことがあると思います。これは、昭和59年5月、手稲稲積土地区画整理事業が完了したことを祝うとともに、地域のさらなる発展を祈って建てられました。

碑文には、この事業についての次のように経緯が記されています。

「この地域は、酪農及び水稻を主体とした専業農家 10 数戸と明治乳業会社の経営する牧場等からなる都市近郊型農業地域として、多大なる農業成果を背景に順調な発展を続けていた。

しかしながら、この地域の付近に工場が相次いで建設され、地下水の汲み上げが多くなったことから、地下水位が極端に下がるところとなった。このため多量の水を必要とする酪農経営が困難となり、農地を手放す農家が増えていった。

その結果、図上分筆による分譲転売が行われたことから、この地域の将来の発展に大きな支障を及ぼす恐れが生じ、一部の有志の心痛とするところであった。

そのような折の昭和 47 年 11 月、札幌市から組合施行による土地区画整理事業によりこの地域の一層の発展を図ってはどうかとの勧めを受け、札幌市と地元関係者との協議が開始された。その後、昭和 48 年 1 月 20 日に稲積開発期成会の発足を見、数次にわたる関係機関及び権利者の意思確認を行い、昭和 49 年 6 月に至り大方の同意を得られたので、札幌市長に対し札幌市でいね土地区画整理組合としての設立許可申請を行い、同年 8 月 20 日付けを以ってその認可を得た。

この事業の工事实施に当たっては、予想外の軟弱地盤に遭遇し、下水道工事は途中で工法の変更を余儀なくされる等最悪の極限までに至り、これらの克服のために幾多の努力が重ねられた。

加えて日本経済が低成長期に入り、金融引き締め等の影響もあって、組合財政運営も非常に困惑した。この困難の時に当たり、札幌市の適切な指導と組合役員及び各権利者が一致協力して幾多の難局を乗り越え、ここに事業の完成を見るに至ったことは、関係者一同の大きな喜びである。

ここに意義のある事業完成に当たり、この事業を末永く後世に伝え、この地域、この郷の限りない発展を祈念し、ここに碑を建設す。

昭和 59 年 5 月吉日

組合設立月日 昭和 49 年 8 月 20 日

組合員数 380 名

総面積 104・9ha

総事業費 69億6098万5千円

札幌市ていね稲積土地区画整理組合」

—都市化の波で農地が住宅地に—

碑文にあるように、この地域での酪農家や水稻農家が土地を手放すことになった原因は、この地域に工場が増え、その工場が地下水を使うことにより、地下の水位が下がり水不足になり経営が困難になったことでした。また、札幌市に人口が集中してドーナツ化現象がおこり、郊外に住宅を求める人が増えたことにより、市は昭和45年、この地域を市街化区域に編入しました。このことも土地を手放す農家が増えた原因となりました。

土地区画整理事業が始まる

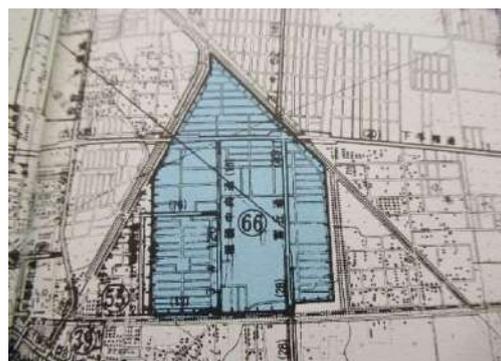
昭和48年(1973年)

前田地区稲積開発期成会設立

昭和49年(1974年)

手稲稲積土地区画整理組合第1回総会

昭和50年 工事起工式



土地区画整理事業工区図



造成前の風景：左写真の左手奥の白い建物は発寒清掃工場



昭和 49 年造成前の工区の様子



昭和 54 年 住宅地分譲開始

昭和 55 年 手稲パークタウン町内会ができる。西友ストアー手稲前田店開店。
下手稲通り開通（下手稲橋、共栄橋完成）。

昭和 56 年(1981 年) 手稲パークタウン第 1 回町内会総会を行う。

手稲パークタウン町内会ができる

昭和 50 年から土地の造成が始まり、昭和 54 年に住宅地の販売が行われ、新しい家が次々に立ち並ぶようになりました。昭和 55 年 7 月入居者がおよそ 100 戸に達し、7 月 20 日町内会が誕生しました。翌年の昭和 56 年に第 1 回町内会総会を行い、役員を選出して町内会活動が本格的に始まりました。

以来、町内の皆様の協力と助け合いにより町内会活動が受け継がれ、安心して安全な生活を営める落ち着いた地域へと発展しました。

令和2年の今年、手稲パークタウン町内会創立40周年を迎えました。



昭和55年の手稲パークタウン

昭和56年 稲積公園幼児用プール
仮オープン。

昭和57年 稲積公園オープン、手稲プールオープン。
市営バス下手稲通り運行開始（稲積公園前バス停新設）。

昭和59年 稲積記念会館に「郷栄の碑」を建設。
区画整理事業完成。

昭和61年 稲積中学校開校。稲積公園駅開設。
稲積記念会館落成式。

昭和62年 稲積小学校開校。

おわりに

町内会ができた昭和55年は、およそ入居数100戸、約100世帯が暮らし始めました。それから40年が経過し、令和2年の今年、約760世帯が暮らす大きな町内会になりました。



昭和59年の手稲パークタウン

当初は、ほとんどが30代、40代の働き盛りがいる同世代の家庭が多く、子どもたちも大勢いて活気のある若い地域でした。現在、世帯数は多くありますが、かつて働き盛りの人たちがリタイヤして熟年といわれる世代が多くを占め、子どもたちは地元から離れ若い世代が少ない町内にかわってきました。

しかし、最近、若い世代が少しずつ増え世代の入れ替わりが起きています。子

どもたちの明るい声も聞くようになりました。大変喜ばしいことだと思います。

町内に住むいろいろな世代が、安全で安心な暮らしができるようにお互いに協力して、住んでよかった、これからも住み続けたいと思える町内会づくりをこれからも目指して行きたいものです。

令和 2 年 10 月

手稲パークタウン町内会

(参考文献・資料)

- ・菅原直氏所蔵の調査資料
- ・「手稲開基 110 年誌 手稲の今昔」
手稲連合町内会連絡協議会・手稲鉄北連合町内会連絡協議会
- ・「発足 10 周年記念誌 掘り伝える」 手稲郷土史研究会
- ・東宮駐輦記念碑移設記念誌「知られざる手稲と加賀百万石 手稲前田と前田農場」
東宮駐輦記念碑移設委員会
- ・「資料に見る手稲今昔 手稲歴史年表」手稲郷土史研究会
- ・「手稲で見つけた手稲のはなし」手稲の語り部編集委員会
- ・「札幌市ていね稲積土地区画整理事業完成記念誌 稲積」
札幌市ていね稲積土地区画整理組合
- ・「前田自作農創設五十周年記念誌」 前田自作農創設五十周年実行委員会
- ・写真は、菅原直氏の資料と「札幌市ていね稲積土地区画整理事業完成記念誌 稲積」
から転写しました。

—記念誌発行について—

町内会ができ 40 年経つと、どんな経緯で町内会ができたのかを知る人が少なくなってきました。そこで、町内会創立 40 周年の機会に、町内会の誕生とこの地域がどのように発展してきたかを手稲の歴史を辿り、皆さんにその移り変わりを知ってもらおうということになりました。

調べていくと知らなかったことがたくさんあり興味がつきません。ここには、町内会にかかわることを書きましたが、興味のある方は上記の参考文献などをお読みください。そして、私たちが住む地域や手稲の歴史に理解を深めていただき、地域の発展に全力を尽くしてきた先人たちの夢や願いに触れてほしいと思います。

文責：池田 幸一

町内会活動の様子



明治南公園の清掃活動



歩道の花壇整備



ラジオ体操



焼肉パーティー



七夕まつり



盆踊り



クリスマス会



新年会



交通安全啓発看板の維持管理



交通安全運動



地域安全のため青色防犯パトロール車と連携して巡回



ゴミステーションの維持管理

手稲パークタウン町内会創立 40 周年実行委員会

会 長 成澤公昭、

副会長 酒井利明、浜埜静子、木村則夫、羽角芳子

部 長 鈴木義行、川本しのぶ、藤川充典、平山雄三、土岐隆嗣、佐藤英一、井上芳治、
池田幸一、若松三智子

町内会創立 40 周年記念誌「手稲パークタウン町内会の誕生と手稲の歴史」

発行責任者 成澤 公昭

発 行 令和 2 年 10 月 手稲パークタウン町内会

印 刷 株式会社 アイム



平成 29 年 子どもたちのために明治南公園にソーラー時計を設置